



2022年1月26日

各 位

会 社 名 小 津 産 業 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 今 枝 英 治
(コード番号 7487 東証第一部)
問 合 せ 先 理 事 管 理 本 部 長 三 崎 剛 志
TEL 03-3661-9400

「2022年5月期 第2四半期決算説明資料」開示のお知らせ

当社は、「2022年5月期 第2四半期決算説明資料」を作成・開示いたしましたのでお知らせします。

記

当社は、1653年の創業以来、株主、投資家、得意先、仕入先、地域コミュニティー、従業員等の当社を取り巻くさまざまなステークホルダーとの対話を重ねてまいりました。

今般、分かりやすい情報開示の一環として「2022年5月期 第2四半期決算説明資料」を作成いたしました。

当社は、引き続き、タイムリーかつ適切な情報開示を行い、株主、投資家の皆さまと積極的にコミュニケーションを図り、長期的な信頼関係のもと、企業価値の適切な評価を得られるように努めてまいります。

以 上



2022年5月期 第2四半期決算説明資料
(2021年6月1日～2021年11月30日)

2022年1月26日
小津産業株式会社
証券コード7487



はじめに

決算における重要なポイント

- 当社は、2021年2月に家庭紙・日用雑貨事業を営むアズフィットの株式を譲渡し、連結子会社から持分法適用関連会社へ変更いたしました。
- 2022年5月期第1四半期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

決算説明資料の新たな作成について

- 当社は、「紙と不織布」の技術力を基盤に、製造機能を強化した商社として収益性の更なる向上を目指しております。
- また、株主・投資家などのみなさまに分かりやすい情報開示の強化にも努めております。
- 当社へのご理解の一助とすべく、「決算説明資料」を新たに作成いたしました。



1. 会社概要	2
2. 2022年5月期 第2四半期 決算概要	7
3. 2022年5月期 業績見通し	11
4. 参考資料	16



1. 会社概要



■ 企業理念 :

「伝統とは継続的な開拓の歴史」との認識のもと、
お客さまの満足や喜びを第一に考えた新しい付加価値を提案し、
豊かな暮らしと文化に貢献します。

■ 小津グループが中長期的に目指す事業像 :

製造商社機能の高度化、新規事業の創出、事業ポートフォリオ変革により、
「**価値創造企業**」への飛躍を目指します。

■ 3カ年計画である中期経営計画2024 :

「紙と不織布」の技術力を基盤に、製造機能を拡充した商社として
収益性の更なる向上を達成します。



小津グループ概要

- 製造商社機能の強化を目指し、付加価値を生み出す技術力・開発力をベースに高機能不織布事業を展開。
- 不織布のニーズにトータルプロデュースで応える会社 「人」と「不織布」を独自のネットワークで結ぶ。

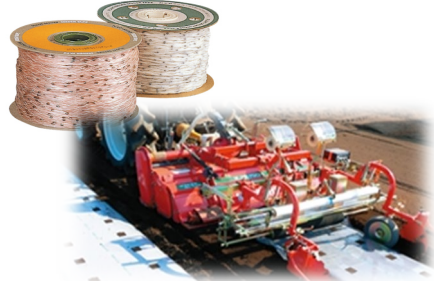
過酢酸系の除菌剤販売
(除菌・殺菌)



エンビロテック
ジャパン(株)

日本プラント
シーダー(株)

アグリ分野
(シーダテープ製造販売)



小津グループ

オツテクノ(株)
・
(株)旭小津

(株)ディプロ
・
パンレックス
(株)

小津産業(株)



不織布、紙製品の加工

不織布、
紙製品の販売



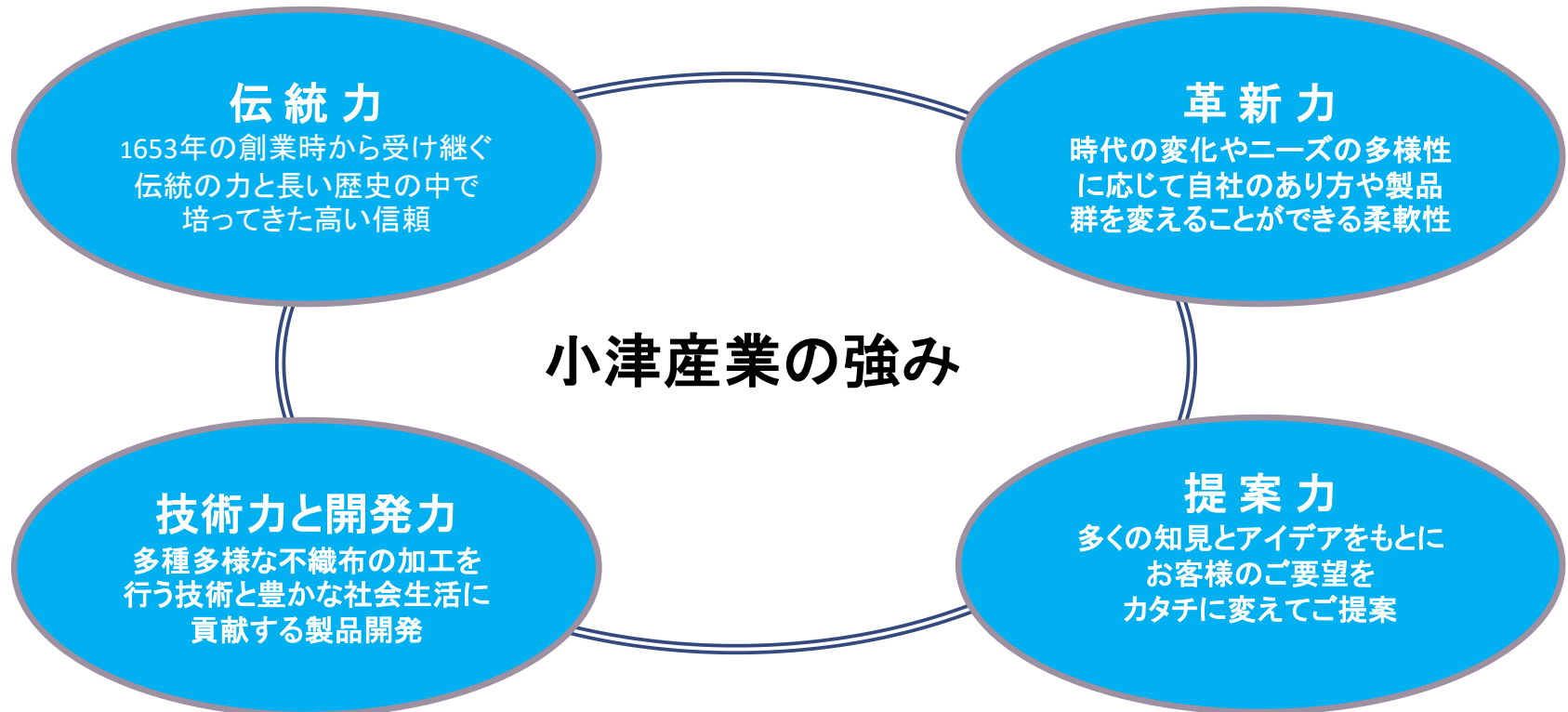
消毒・除菌WET、
フェイシャルシート等の製造販売





■「紙と不織布」の製造商社

- ・1653年(承応2年)創業の和紙問屋を起源とし、時代・時代のニーズに則した製品を提供。
- ・和紙を祖業に不織布を扱い、現在では、エレクトロニクス・クリーン分野、メディカル分野、コスメティック分野、コンシューマー分野などを展開。
- ・機能性不織布製品の企画開発から製造・販売までをメインとした幅広いサービスを提供。



■アジアに拠点を備えるグローバルネットワーク

- ・シンガポール支店: ASEAN、インドの販売拠点。
- ・上海現地法人: 中国の販売・生産・購買拠点。
- ・マレーシア協力工場: ASEAN等への迅速な製品供給。
- ・独自の不織布製品の存在感を示し、新しい市場を開拓する足がかりを築くために、国際展示会にも積極的に参加。





2. 2022年5月期 第2四半期 決算概要



業績のポイント

※2021年6月1日から11月30日までの状況

- 連結範囲の変更(アズフィットを連結子会社から持分法適用関連会社へ変更)、新会計基準(「収益認識基準」)適用の影響が大きく、売上高・利益面は、前年同期比、減収・減益。
- ただし、上記特殊要因を除いた、不織布事業は、前年同期比、増収・増益。

各事業の主要動向

- 不織布事業
 - ・エレクトロニクス分野： 通信機器関連、半導体関連向けの需要は堅調推移。東南アジアの工場稼働率も向上。前年同期比、販売水準・利益面とも増加。
 - ・メディカル分野： 新型コロナウイルス感染症対策の衛生材料は堅調推移するも、前年の需要急増の反動から、前年同期比、販売水準は微増、利益面は減少。
 - ・コスメティック分野： 国内向け販売、東アジア市場向け販売とも増加。前年同期比、販売水準・利益面とも増加。
 - ・除染関連分野： 販売実績を計上。
 - ・小津(上海)貿易有限公司： エレクトロニクス分野の需要は安定推移するも、エレクトロニクス分野以外の需要が低調。前年同期比、販売水準・利益面とも減少。
 - ・ディプロ： 前年の反動減が大きく、前年同期比、販売水準・利益面とも減少。
 - ・日本プラントシーダー： 海外販売はやや復調するも、国内販売が横ばい。前年同期比、販売水準は横ばい、利益面は増加。
- 家庭紙・日用雑貨事業
 - ・アズフィットを連結子会社から持分法適用関連会社へ変更。当該セグメントは廃止。アズフィットの業績は、持分法による投資損益にて計上。

連結業績概要Ⅱ



(百万円)	21/5期		22/5期		前年同期比
	2Q実績	構成比	2Q実績	構成比	増減額
売上高	20,259	100.0%	5,494	100.0%	△14,764
売上総利益	3,245	16.0%	1,710	31.1%	△1,534
販売費及び一般管理費	2,755	13.6%	1,287	23.4%	△1,468
営業利益	489	2.4%	423	7.7%	△66
経常利益	505	2.5%	474	8.6%	△30
親会社株主に帰属する 四半期純利益	345	1.7%	389	7.1%	43

※1. 前事業年度第2四半期には、家庭紙・日用雑貨事業を営むアズフィット(株)の業績を連結子会社として反映しており、本事業年度第2四半期には、同社の業績は持分法適用関連会社として反映しております。従って連結の範囲が異なっております。

前事業年度第2四半期における同社の売上高は、13,240百万円、営業利益は124百万円です。(家庭紙・日用雑貨事業の売上高、セグメント利益に相当)

※2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を本事業年度第1四半期期初から適用しております。当該会計基準等の適用による売上高の減少額は2,067百万円です。

※3. 上記1、2のため前年同期比の増減率は記載しておりません。

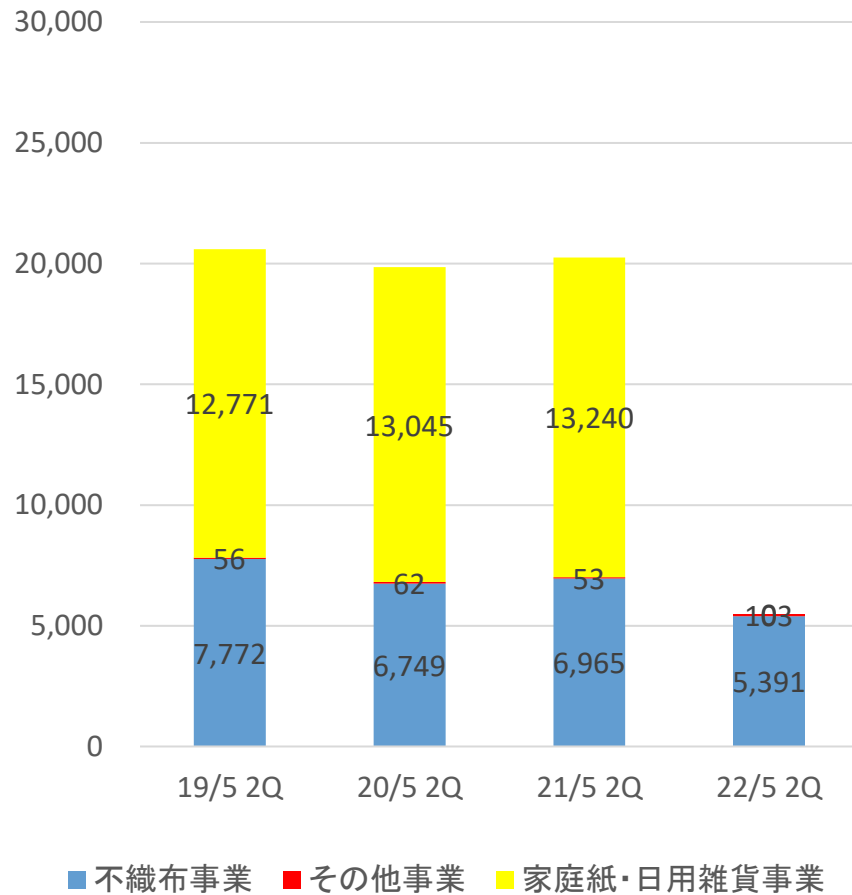
<参考> 除く家庭紙・日用雑貨事業セグメントベース(不織布事業+その他事業)

(百万円)	21/5月期		22/5月期		前年同期比
	2Q実績	構成比	2Q実績	構成比	増減額
売上高	7,018	100.0%	5,494	100.0%	△1,524
セグメント利益(≒営業利益)	365	5.2%	422	7.7%	57

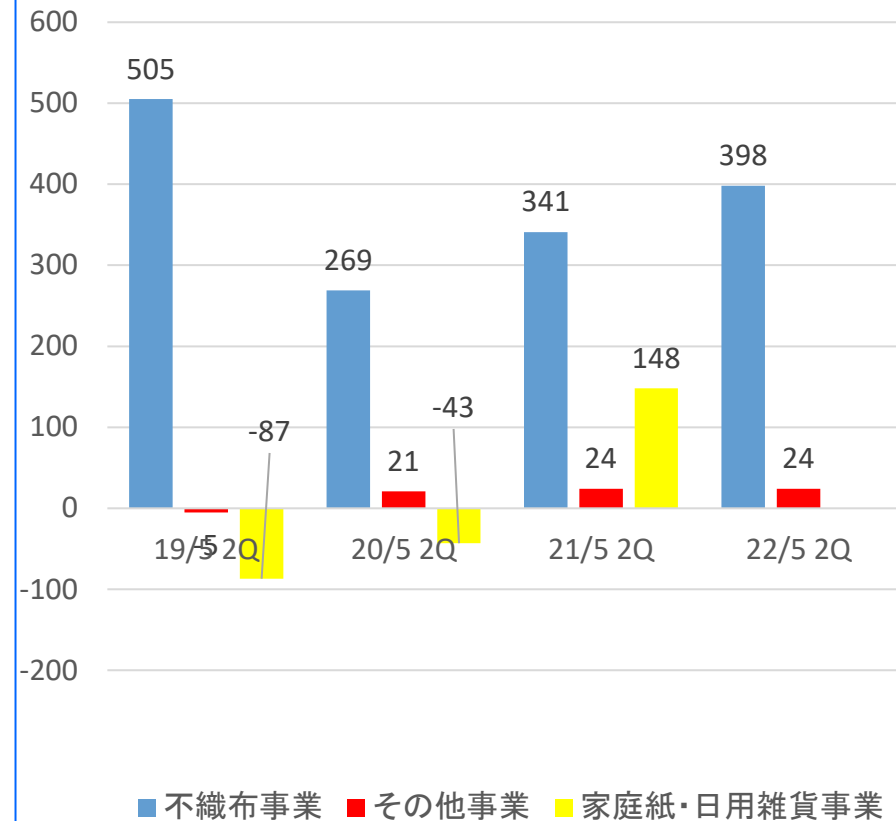
※1. 「収益認識基準」等の適用による売上高の減少額は2,067百万円です。



セグメント別売上高



セグメント利益



※連結範囲の変更: 2021年5月期第2Q アズフィット(株)売上高13,240百万円、セグメント利益124百万円。(家庭紙・日用雑貨事業)

2022年5月期第2Q アズフィット(株)の売上高、セグメント利益の計上はなし。

※会計基準(「収益認識基準」)適用による売上高の減少: 2022年5月期2Q 2,067百万円。



3. 2022年5月期 業績見通し



業績見通しのポイントと取組み状況

業績見通しのポイント

- 連結範囲の変更(アズフィットを連結子会社から持分法適用関連会社へ変更)、新会計基準(「収益認識基準」)適用の影響が大きく、売上高・利益面は、前年同期比、減収・減益の見通し。
- 不織布事業、その他事業において、下記事項に取組み、業容・収益力向上を目指す。

各事業の主な取組み状況

- 不織布事業
 - ・エレクトロニクス分野： 高速データ通信用デバイス等の通信事業分野、車載用電子部品分野等への積極的な営業の展開。
 - ・メディカル分野： 衛生材料の販売推進及び、新製品の開発・販路の拡大。
 - ・コスメティック分野： グループシナジー効果の発揮による新事業・新商品の創造。
 - ・除染関連分野： 品質・性能の向上及び、用途開発の推進による、電力会社等での採用事例の積上げ。
 - ・ディプロ： 2020年2月稼働の新本社工場の製造機能の活用及び、生産性向上。営業力強化による提案型ビジネスの推進。
 - ・日本プラントシーダー： 大粒子テープの普及、新たな播種機の開発推進、販路開拓。
- その他事業
 - ・除菌関連事業： 食品殺菌用途等としての過酢酸製剤の販売促進活動の積極的な推進。

2022年5月期 連結業績予想



(百万円)	21/5期		22/5期		前期比
	実績	構成比	予想	構成比	増減額
売上高	33,922	100.0%	10,600	100.0%	△23,322
営業利益	868	2.6%	700	6.6%	△168
経常利益	950	2.8%	750	7.1%	△200
親会社株主に帰属する 当期純利益	724	2.1%	520	4.9%	△204

※1. 2021年5月期においては、第3四半期迄、家庭紙・日用雑貨事業を営むアズフィット(株)の業績を連結子会社として反映しており、本事業年度期初からは、持分法適用関連会社として反映しております。従って連結範囲が異なっております。
2021年5月期 第3四半期迄の同社の売上高は19,472百万円、営業利益は225百万円です。(家庭紙・日用雑貨事業の売上高、セグメント利益に相当)

※2. 「収益認識基準に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を本事業年度第1四半期期初から適用しております。
当該会計基準等の適用による売上高の減少を合理的に見積り、2022年5月期の業績予想を作成しております。

※3. 上記1、2のため前期比増減率は記載しておりません。

<参考> 除く家庭紙・日用雑貨事業セグメントベース(不織布事業+その他事業)

(百万円)	21/5月期		22/5月期		前期比
	実績	構成比	予想	構成比	増減額
売上高	14,450	100.0%	10,600	100.0%	△3,850
セグメント利益(≒営業利益)	640	4.4%	700	6.6%	60

※1. 「収益認識基準」等の適用による売上高の減少を合理的に見積り、2022年5月期の業績予想を作成しております。



(百万円)	業績予想	2Q実績	進捗率
売上高	10,600	5,494	51.8%
営業利益	700	423	60.4%
経常利益	750	474	63.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	520	389	74.8%

通期連結業績予想に対し、概ね順調に推移中。



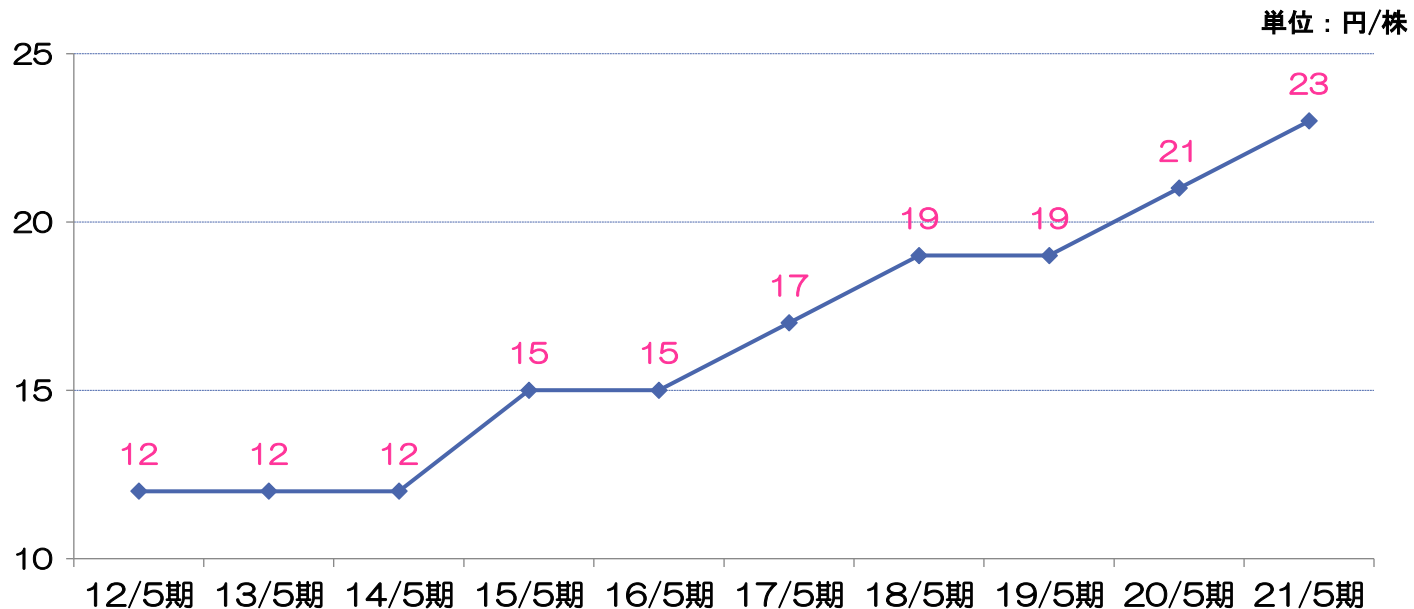
株主還元方針

株主さまに対して、長期的に安定した利益還元を行うことを基本方針としつつ、合わせて当社グループの企業体質の強化と将来の事業展開に備えた内部留保の充実を総合的に勘案し、株主還元を行います。

業績拡大・収益力向上によって得られる利益については、上記の株主還元方針を踏まえつつ、還元の拡大を検討してまいります。

現時点においては、2021年5月期と同様の、一株あたり23円の配当を予定しております。

【配当金推移】





4. 參考資料



小津産業会社概要

会社名	小津産業株式会社
本社所在地	東京都中央区日本橋本町3-6-2
創業	1653年(承応2年)
設立	1939年(昭和14年)12月6日
資本金	13億2,221万円
証券コード	東証1部 7487 ※2022年4月4日プライム市場へ移行
事業内容	不織布(エレクトロニクス用、メディカル用 コスメティック用、産業資材用) 洋紙・紙製品等の 国内販売・加工、輸出入
従業員数	連結:260名 単体:97名(2021年5月31日現在)

役員

代表取締役社長	今枝 英治
代表取締役副社長	河田 邦雄
取締役	近藤 聡
取締役	雛元 克彦
取締役	村尾 茂
社外取締役	穴田 信次
社外取締役	山下 俊史
常勤監査役	稲葉 敏和
社外監査役	深山 徹
社外監査役	山本 千鶴子

関係会社

連結子会社	オヅテクノ(株) 日本プラントシーダー(株) (株)ディプロ 小津(上海)貿易有限公司 エンビロテックジャパン(株)
持分法適用関係会社	アズフィット(株) (株)旭小津



(百万円)	21/5期 5月末	22/5期2Q 11月末	増減額
流動資産	11,904	12,083	+179
固定資産	10,409	10,056	△352
総資産	22,314	22,140	△173
流動負債	5,055	4,869	△186
固定負債	1,266	1,198	△67
負債合計	6,322	6,068	△253
純資産	15,992	16,072	+79
自己資本 比率	71.6%	72.6%	+1.0%

主な増減要因

- 流動資産
 - 未収入金の増加 +401
 - 受取手形及び売掛金の減少 △224
 - 商品及び製品の減少 △198

※「収益認識基準」の適用により、「受取手形及び売掛金」が減少し、「未収入金」が増加しております。
- 固定資産
 - 投資有価証券の減少 △181
- 流動負債
 - 未払金の増加 +578
 - 支払手形及び買掛金の減少 △742

※「収益認識基準」の適用により、「支払手形及び買掛金」が減少し、「未払金」が増加しております。
- 純資産
 - 利益剰余金の増加 +196
 - その他有価証券評価差額金の減少 △133



(百万円)	21/5期 2Q	22/5期 2Q	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	849	480	△368
投資活動による キャッシュ・フロー	△181	△104	76
財務活動による キャッシュ・フロー	△375	△192	183
現金及び現金同 等物に係る換算 差額	△7	5	12
現金及び現金同 等物の増減額	284	188	△95
現金及び現金同 等物の期首残高	2,569	6,616	4,046
現金及び現金同 等物の四半期末 残高	2,853	6,804	3,950

キャッシュ・フローの状況

- 営業キャッシュ・フロー(2022年5月期第2Qの獲得)

税金等調整前四半期純利益	+473
減価償却費	+219
売上債権の増加	△315

※2020年5月31日が金融機関の休日のため、売上債権の回収および仕入債務の支払が翌営業日(2020年6月1日)となりました。

2021年5月31日は、金融機関の営業日のため、売掛債権の回収および仕入債務の支払を同日に行いました。その結果、2021年5月期第2Qと2022年5月期第2Qを比較した場合、売上債権の増減額および仕入債務の増減額に大きな差異が生じたことを主因として、2021年5月期第2Q比、営業キャッシュ・フローが減少しております。

- 投資キャッシュ・フロー(2022年5月期第2Qの支出)

有形固定資産の取得による支出	△93
----------------	-----
- 財務キャッシュ・フロー(2022年5月期第2Qの支出)

配当金の支払額	△192
---------	------

※2021年2月にアズフィットの株式を譲渡したこと等により2022年5月期期首の現金及び同等物が増加しております。



本資料に関するお問い合わせ

小津産業株式会社 経営企画室

Email : soumu@ozu.co.jp

<https://www.ozu.co.jp/>

本資料の取り扱いについて

- ・本書には、当社グループに関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- ・別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- ・当社グループは、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- ・当社グループ以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。